



ライオンズ・リーダーシップ研究会（テーマ「新しいライオンズ像を描く」）

2日目パネル・ディスカッション用資料

1日目グループ・ディスカッション発表報告書

セッション1：テーマ「新たなアクティビティの方向性（可能性）」

1. エレクトロニクスチーム

海外関連アクティビティについて討議

- 海外クラブとの交流が大切。
- 継続が重要、継続できないとかえって毒になることも。

環境を例に話を深め討議

- 幅広い中でライオンズはどこまでやるべきなのか。
- 「啓発」・「実働」部隊がある中で、他の団体（企業・行政・大学・個々のネットワーク・海外クラブなど）をいかに巻き込んでやっていくのかが、ジャンルを越えて共通の課題である。

↓

広報・PRの重要性に着目し討議

- ＜外部に向けて＞マスコミもうまく利用する。
- ＜クラブ間に向けて＞外部だけでなくクラブ間の情報交流も必要。
- ＜クラブ内部に向けて＞クラブ内部で自由に語り合える雰囲気も大切である。

2. ぞうさんチーム

新しいアクティビティの方向性を討議

- 地域のエネルギーを貰い、地元でやりたいことを探す。
- ライオンズに対する地域の理解を深める。
- 大学・企業を交えて地域の諸団体と接触していく。
- 資金提供メンバーと体力提供メンバーを分けて、会費を下げドネーションを多くしては。
- 地元（子ども）に対してアクティビティをしていく。
- 地域を跨いだところで同じ考え方の人たちで集まってやってもいい。

結論

- 新しいものを生み出すためには、いろいろな団体や地域の学校などと接触していき、ニーズを聞き出していき、新しいアクティビティを作り出して行くべきではないか。

3. チームACE

「これからの時代にふさわしいアクティビティについて」

問題点の抽出（メンバーから現状や問題点を聞き取り）

- 継続的なアクティビティを続けることが大変。
- ベテランが、力を持っている特定メンバーに任せっきり。
- メンバー減少により体力・資金が減っている。
- 資金の使い道が下手。

○地域密着を心がけたい。

面白そうなアクティビティを模索

○メガネのリサイクル（エコにつながる）

○タイへの古着のアクティビティがあったが、海外のクラブとの交流があったおかげで実際に現地に行く必要は無かった。

○国際大会等で、現地の通貨（小銭）を寄付するなどのアクティビティはどうか。

○国際大会の意義が薄いので、もっと日本の良さをPRしたい。

○クラブ内だけにとどまらず、外からの見聞を広めたい。

4. うぎちゃんチーム

各クラブのアクティビティの現状

○上から目線でお金を配るだけでなく目に見えることや身体を使ったものをしたい。

○古いメンバーさんとのジェネレーションギャップがあり、足を引っ張られて新しいアクティビティにチャレンジ出来ずあきらめてしまう。

○毎年同じアクティビティで飽きられてしまうが、単一クラブで打開していくのは難しい。

○薬乱や救命救急士等の資格を取っても活用する機会がないので、そういう場所を開拓する必要がある。

○会員増強につながる自信をもって人に勧められるようなアクティビティの提案を若いメンバーが行っても認められない。

これからは・・・(希望)

○古いメンバーも若い人の意見を尊重してほしい。

○年次大会のガバナーズアワードだけでなく、アクティビティの客観的な評価基準が何かあると古い人が納得し若い人がやりやすくなるのでは。

○クラブの垣根を越えて共通で活動出来ないか。各メンバーが共感出来るアクティビティに自由に参加出来たら、アクティビティの質が向上したり種類も増えるのではないか。

○気持ち良く参加出来るアクティビティとすることが望ましい。

5. チーム期待はずれ

○人数の減少がある中で、クラブを越えた協力で横の繋がりが出来ないか。

○クラブ間のこと以前に、単一クラブが力を付ける必要が先である。

○金銭奉仕・労力奉仕とある中で、出来れば労力奉仕を重要視したい。出来れば将来ライオンズクラブのメンバーになってくれるように、子ども達と共に、子ども達と同じ目線での労力奉仕が大切なのでは。

○地域の諸団体に対するPRでは、まず自分たちが楽しいと思い自信を持たなければ奉仕活動は出来ないし始まらない。宣伝が出来れば会員も入ってくる。

結論

○クラブに戻って提案出来る場所・システムを作っていただけると、こういうところで話し合ったアクティビティが実現できる良いクラブになっていくのでは。

セッション2：テーマ「豊かなライオンズ・ライフ」

1. ぞうさんチーム

小グループ①「(ライオンズとして) 誇りを持てる、評価されること」

○金銭アクティビティだけでは誇りを持ってない。

小グループ②「自分を育て、互いに育て合う 出会い」

○新しい出会いが新しい動きを生み、自分を豊かにする。

○仲間との活動と評価が自分自身のモチベーションになる。

○20年後を考えるには、次世代の若者達が必要。

全体討議

○自分自身で行動を起こしてみる。

○クラブの中で若手が意見を言えて、クラブとして実現出来る仕組み作り。

○素人でも簡単に参加出来るアクティビティを作って継続させていく。

○新規アクティビティ実行委員会（実際にメンバーのクラブにある委員会）等で経験のあるメンバーが若いメンバーをサポートし新しいアクティビティの仕組みを作っていく。

○若い人を参加させ育てていく仕組み作り。

2. チーム隼人

20年後を考えるにあたり、これからどうすれば良いか。

○世代毎の横の繋がり・交流を考える。

○世代間のギャップをうまく調整する。

○新しいアクティビティ、また楽しさも大切。

↓

しかし、現在の悪条件の中で色々な改善を試みても、人数減により危機的状況を迎えライオンズクラブは消滅しているかもしれない。

↓

チームのメンバーの一人が、ライオンズクラブに入会したことにより人生が変わるほどの楽しさを得て、日々の生活が充実し、仕事もうまくいくようになった。この一つの事実が本日のテーマの結論である。

3. チームチェンジ

ベテランこそこのような会に参加すべきである。

①豊かなライオンズライフとを感じる時

○アクティビティで「ありがとう」の言葉があった時。

○労力アクティビティでのビールの一口目。

○ライオンズの知名度を感じた時。

○人との繋がりが持てる・出会いがあった時。

○（奉仕の）充実度。

○（奉仕を）させていただく喜び。

②豊かさを味わえない悪いイメージの時

○豊かなと言うことをわざわざ考えなくてはいけない現状。

○世界一のボランティア団体なのに、見たくないことが多い。

○全員が親分なので、ボランティアなのに人間関係でギクシャクする。

結論（着地点）

お金と労力が合わないという組織や継続事業について、時代のニーズに合わせて見直し、ぶっ壊すほどの「チェンジ」を行ってはどうだろうか。

4. ダボチーム

①人間関係をスムーズにする

同好会や例会を楽しむことが大切。

会員それぞれが、お互いスムーズな関係になるように努力しなければいけない。

②20年後のライオンズ

世間や若い2代目の人たちに、良い活動をやっているという事を伝えていかなければこの先はない。

③会員増強

例会の内容、形態が適切であるかの見直しが必要である。

会費の徴収方法も考えていかなければいけない。

5. チームホットスプリング

20年後の前に20年前はどうだったか？

○景気が良くクラブ・会員共に増え、楽しいライオンズライフだったと想像出来る。

20年後はどうなっているか？

○このままではライオンズクラブは無くなっているかもしれない。

では、どうしたら20年後が楽しいライオンズクラブになるか？

○クラブの数だけが多すぎるので、クラブの会員数を増やす。

○金銭的理由で若い会員が増えないのであれば、会費の負担軽減を検討する。

○例会見学については、複数人数で見学するようにして大きく楽しいクラブを見せる工夫が必要。

○外から見てお金を寄付して終わってしまう団体と思われぬように、企業や行政ときっちり手を取り合ってステータス的な活動をやっていけばスマートな団体になる。

※発表の録音をもとに、発表後に提出していただいたディスカッション・リポートを参考にして要約しました。時間の都合上皆様からの校正をいただけないため、相違点や足りない点等があることと存じますが、なにとぞご容赦願います。（L 荘）